



強制連行の証拠なし 橋下大阪市長の発言で再び注目

身心棒大和種子のウイヌ

聖戦大勝の勇士大歓迎

韓国の李明博大統領が竹島に上陸したのは、日本が「従軍慰安婦」問題にきちんと対処してこなかったからだという。だが、橋下大阪市長も言うっており、慰安婦を強制連行した証拠はない。

では、いったいどうしてこの問題が騒がれつづけるのか。調べてみると、日本の左翼が焚きつけ、韓国がそれに乗った歴史が見えてきた。日韓関係をここまで悪化させた真犯人は、いったい誰だ！

徹底検証

従軍慰安婦問題は、 朝日新聞の捏造から始まった！

この記事だけで
すべてわかる！



発見!!

笑顔の慰安婦たち

その証言が始まると、大阪の500人の聴衆はしんとして聞き入ったという。

「当時、われわれは『狩り出し』という言葉を使っていた。泣き叫ぶというような生やさしいものではない。船に積み込まれる時には、全員がうつろな目をして廃人ようになっていた…」

これは、昭和18年夏、わずか1週間で朝鮮・済州島の若い女性200人を狩り出した吉田清治氏の懺悔だ。吉田氏は女工から海女まで手当たり次第に拉致し、慰安婦に仕立て上げたという。

朝日新聞がこの吉田氏を大々的に取り上げたのは、'82年9月2日だった。以後、吉田氏は紙面に何度も登場し、従軍慰安婦の悲惨さを語り尽くした…。

韓国の李明博大統領が竹島に上陸して以来、日韓関係がぎくしゃくしている。大統領は上陸前、「日本は従軍慰安婦問題を心から謝罪していない」と述べ、一連の問題の発端が慰安婦問題にあると発言した。これに対し、21日、橋下徹大阪市長は「従軍慰安婦問題で強制連行があったという確たる証拠はない」と述べている。さらに24日には石原慎太郎都知事も「はっきり言って

※次ページに続きます

これが騒動を捏造した朝日の記事だ！



「82年9月2日付。吉田氏は「慰安婦を強制連行した」というネタをばらまいた張本人。《直接指揮して日本に強制連行した朝鮮人は約六千人、うち九百五十人が従軍慰安婦》とあるが、全部嘘だった。朝日は事実確認したの？」



「91年8月11日付。元従軍慰安婦が初めて名乗り出たという大スクープ。だが、「この女性は誰も相手にしてくれず、寂しかったから、裁判を起こすという話に乗ったと関係者が話していました」(西岡氏)



掲載写真はすべて軍医だった麻生徹男氏が撮影したもの。写真は南京の慰安所。「慰安婦は金銭的に恵まれ、家数軒分の貯金があった人も」(西岡氏)

強制ではない。強制した証拠がどこにありますか」と言った。

吉田氏は明確に「自分が拉致した」と語っているのに、どういふことなのか？ 現代史家の秦郁彦氏が言う。

「吉田証言は完全な作り話なんです。証言が本になつてすぐ現地の『済州新報』が取材しているが、一つも事実が見つからなかった。私も92年に現地調査しましたが、証言を裏づける話は一つ出てこない。ある韓国の郷土史家は何年も調査し、拉致の事実はないかと断定、吉田の本を『日本人の悪徳ぶりを示す軽薄な商魂の産物』とこき下ろしてるんです」

つまり、吉田氏は本を売って儲けるため、嘘八百を並べたてたというのだ。実際、吉田氏は「証言は捏造だった」と後に認めているし、朝日新聞も「氏の著述を裏付ける証言は出ておらず、真偽は確認できない」(97年3月31日付)と暗に誤報を認めている。しかし、この証言は独り歩きし、いまでは「日本軍が韓国女人性を性奴隷にした」という嘘が国際的に広まってしまった。吉田氏を祭り上げた朝日や同調した歴史家の罪は重いと秦氏は言う。

両親に売られた少女が従軍慰安婦の代表に

朝日新聞が従軍慰安婦問題を大きくした、別の「スクープ」もある。91年8月11日付の「元朝鮮人従軍慰安婦戦後半世紀 重い口開く」という記事で、元従軍慰安婦が初めて名乗りを上げたことを報じたものだ。東京基督教大学の西岡力教授が言う。

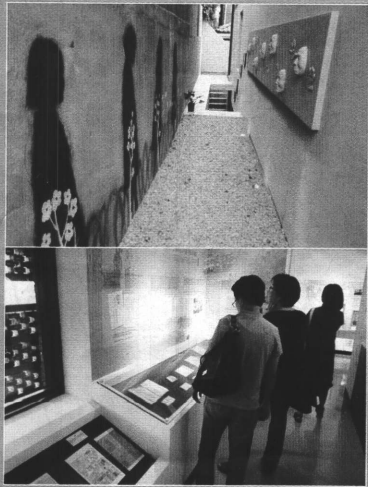
「記事は『(勤労奉仕団体の)女子挺身隊

「実態は強姦犯罪」と強烈アピール「従軍慰安婦博物館」に行ってみた！

ソウル

今年5月5日、ソウル市内に「戦争と女性の人権博物館」いわゆる従軍慰安婦博物館がオープンした。さっそく行ってみると、建物は地下1階、地上2階建て。地下から入場すると、そこには杭一つだけ置いてある陰惨な慰安所が再現されていた。1階はアフガン戦争やコソボ紛争など、世界各地の戦争で女性が苦しんだ、という内容。慰安婦関連は2階に展示されていて、慰安所の入室券や軍票、当時のコンドーム、兵士の日記や、慰安婦の身上書などが飾ってあった。

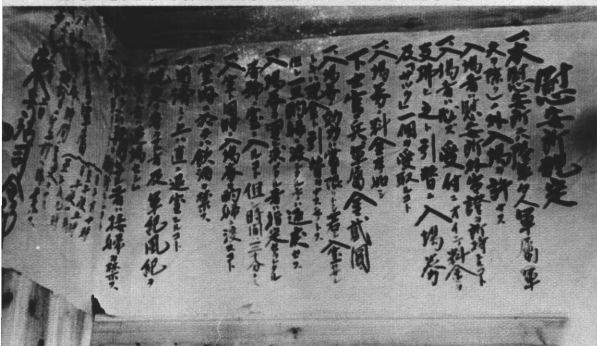
ひどいのはパネルで、館内でもらった日本語翻訳によれば、「慰安所は「強かんセンター」に他ならなかった」(前線の近くでは洞窟や防空壕などで女性を強かんすることもあった)などと言いたい放題。しかも、平日にもかかわらず、見学者が引きも切らない。これでは、日本がいくら「強制ではなかった」と主張しても、その声は韓国には届かないだろう。なお、この博物館に、韓国政府は約3千500万円拠出したことが判明している。



写真上：入口前の通路。慰安婦の悲惨さを描いた絵が並ぶ。下：展示は予想以上に少ないが、来館者は熟読



上海の慰安所の外観。室内は畳敷きで、正面に洗浄場があった



時間と料金が明示された慰安所規定。「規定を守らない者は退場」とある



性病検査用の検診台。軍医による定期検査で、衛生面はきちんとしていた



の名で連行され」と書いてますが、これは吉田証言に乗った誤報です。名乗りを上げた金学順^{キム・ハクスン}は女子挺身隊で連行されたのではなく、母親に40円で妓生に売られたと明言してるのです。問題は、記事を書いた朝日ソウル支局記者の韓国入妻の母が、太平洋戦争遺族会の常任理事だったこと。この団体が金学順^{キム・ハクスン}に日本政府相手に裁判を起こすよう勧めるんです。妓生出身を隠し、しかも身内を利用する記事を書いたわけで、悪意に満ちた意図的な誤報。捏造と言っても過言ではないでしょう」

朝日は翌年1月11日付の一面トップで「慰安所 軍閥との通達 日誌 募集 集め 監督・統制」という記事も書いている。

「この陸軍資料は『慰安婦募集に際して業者が悪どい手口を使うので取り締められ』という内容なのに、それを『軍の関与』とさも悪いことのように報じたんです。問題はタイミングです。当時の宮沢喜一首相が訪韓する5日前で、それまで国の介入を否定していた日本政府に『偽証』の証拠を突きつけようとした演出が読み取れる。そしてこの記事は、朝日の狙いどおり大反響を呼びました」（秦氏）

記事を受け、当時の加藤紘一官房長官は事実調査の前に「お詫びと反省」の談話を発表してしまふ。空港に押し寄せたデモ隊に動転したのか、韓国で首相はなんと8回も謝罪するハメになるのだ。さらに93年8月4日、当時の河野洋平官房長官が、証拠がないにもかかわらず「本人たちの意思に反して集められた事例が数多くあり…」という主語のない談話を公表し、内外に官

憲による強制連行があったようなイメージができあがってしまう。橋下市長が「河野談話が最大の元凶」と批判したのはこういう意味だ。西岡氏が言う、「私は当初から『慰安婦問題』など存在しないと言いつづけてきました。理由の第一は、日本の公権力による慰安婦の強制連行は確認されていないこと。彼女らは貧困による人身売買の被害者なんです。第二に、日本と韓国の戦後補償問題は65年の日韓条約ですべて解決済みだからです」

そもそも、従軍慰安婦という言葉自体、戦時中にはなかったと秦氏が言う。「従軍慰安婦」という言葉は、毎日新聞出身の千田夏光^{ちのうら}が73年に出版した本で初めて使った造語なんです」。

この本こそ、女子挺身隊と慰安婦を混同し、「慰安婦が20万人いた」という嘘をまき散らした元凶なのだ。

上海で慰安所の検診を担当した軍医麻生徹男氏の次女・天児都^{あまこ}さんが語る。「父が撮影した慰安所の写真を提供すると、いつも悪の象徴のように使われてしまふんです。韓国だけでなく、日本の左寄りの人たちもずいぶん間違った目で見ている人が多いですね。この国には、日本を批判したくてたまらない人たちが3分の1くらいいるような気がします」

慰安婦問題は、日本の左翼が種を蒔き、それに韓国が乗って花を咲かせたのだ。では、この問題を大きく育てた朝日新聞は「捏造批判」にどう答えるか。「締切りまで時間がないので、回答できません」。日韓関係をこきまでめちゃくちやにした謝罪の言葉は、いっさいなかった。